

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年12月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300068
法人名	株式会社セカンドライフ
事業所名	グループホーム西南
所在地	鹿屋市池園町2297-7 (電話) 0994-34-1008
自己評価作成日	令和 6年 10月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園が広がり、自然豊かな環境の中に当ホームはあります。地域の方が周りの畑に、初夏は向日葵、秋はコスモス・蕎麦を育てられ利用者の皆様も喜ばれており感謝しています。1棟が開設17年目、2棟が16年目を迎え地域のかたがたにも認識されてきたと思います。当ホームの理念は「笑顔の絶えない毎日を。貴方と、家族と、私達と、地域と共に。」を掲げ、理念に沿ったサービス提供を目指しています。まだまだ理想とするホームにはほど遠いですが、スタッフ一人ひとりが考え、模索し、少しでもそれに近づこうと努力している現状です。地域密着型サービスの意味を踏まえ、地域の中に根ざして行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは県道550号線沿いの田園の広がる地域にあり、近隣の方々が管理している畑にそばの花やひまわり、コスモス等が咲くためホームから眺めたり、花見を兼ねて近隣を散歩する際に近隣の方とも挨拶や会話を交わすなど交流につながっている。コロナ禍以降、地域行事や学校関係との交流の機会は減少したが、今年度より中学生の職場体験の受け入れを再開させたり、地域の方々からは野菜の差し入れをもらうなどの関係を継続させている。

毎日の食事は、当日冷蔵庫の中身を見てメニューを決めるため、利用者の食べたいものをメニューに反映させることができる。また、台拭きや食器洗い、ピーラーを使って野菜の皮むきに取り組むなど、利用者も調理に関する一連の工程に参加し、利用者と職員が同じメニューを会話を楽しみながら一緒に食べている。菜園では、すいかやゴーヤ、ピーマンやブロッコリー等の季節の野菜を育てており食卓に上がる。特にすいかは毎年見事に育て収穫しており、赤や黄色の大きなすいかの写真をお便りにより家族に発信することで家族からの意見や感想をもらう機会にもなっている。

入浴は一般的には夜に入るものであるため、ホームでも午前ではなく午後から入れないか検討し、職員の人員配置等を考慮して現在は15時以降の入浴としている。冬至にゆず湯を提供するなど、くつろいだ気分で入浴でき、入浴が睡眠に有効に作用できるよう職員は日々、利用者の気持ちや様子確認に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者に対し、自分達はどうありたいか？どうあるべきか？又、どう支援していききたいかを考え現在の理念を掲げている。職員会議等にて繰り返し考え、実践している。	玄関や事務所などの目に付く場所に理念を掲示し、理念にある「笑顔が絶えない毎日」を日々の支援に活かせるよう職員会議で理念を振り返るようにしている。また年度末に職員全員にアンケートを取り、働く意識について確認するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長をはじめ、保育園、小学校、中学校との交流、地元消防団の避難訓練参加等 地域の方々にお世話になっている。これからも、地域住民との関わりを大事にしていきたい。	町内会に加入しており、月2回町内会長が鹿屋市の広報を届けてくれる際に地域の様子や情報等を伺っている。近隣の畑にコスモスやひまわりが植えられるため散歩の際に見て回り、近所の方とも挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	鹿屋市認知症相談窓口「オレンジのまど」やボランティア受け入れ施設の指定を受けている。地域の皆様に貢献していければと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会の委員に地元の町内会会長、民生委員、家族代表がなっさっており施設の広報も担ってくださっている。推進会議を通じホームの現状を報告し助言や意見をいただきサービスの向上に努めている。	運営推進会議には家族や町内会長、民生委員や行政職員等が参加し、利用者の状況や研修、ヒヤリハット報告などを行っている。メンバーからはコロナ感染症に関することや近隣に住む要支援高齢者に関すること、町内の行事へのお誘いなど活発に意見交換がなされており運営につなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会を通じ、市担当者・包括支援センタースタッフにホームの運営状況や利用者の生活状況報告している。指導やアドバイスを受けながら協力関係の構築に努めている。	生活保護課や高齢福祉課、社会福祉協議会による金銭管理サービスを利用しながら利用者の生活を支援している。また、行政主催の研修会への参加や入所状況の確認、大隅介護連絡協議会による研修会への参加等、積極的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで身体拘束適正化の指針、委員会を設置。拘束における弊害等定期的に勉強会のテーマに上げている。委員会は3ヶ月に1回開催。身体拘束の実例はないが言葉の拘束等、職員会や朝礼にて注意を促している。	重要事項説明書に身体拘束の廃止や虐待防止に関する項目を明記し、年4回身体拘束適正化委員会を実施するほか、年2回研修会も行い身体拘束の弊害についてを話し合っている。言葉による拘束に関しては「ちょっと待って」も拘束に当たるとを職員会議等で確認し合い、職員による不適切な言葉遣いを確認した際は管理者が直接声をかけるなどして注意喚起を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームにて、楽隊防止の指針、委員会を設置。三ヶ月に一回は職場内研修にて、あつてはならない事として繰り返し学んでいる。全国ニュースにて虐待の報道がある都度スタッフに話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業を活用している。スタッフも外部研修にて学ぶ機会があり、正しい知識のもと利用者の支援が出来るよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談、入居時と、時間をかけ説明している。介護保険の改正時等も家族会や個別に説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・スタッフともに、日頃から利用者・家族との関係作りに努めている。特に面会時家族と接する時間の多いスタッフは信頼関係の大切さを理解し、家族の想いや要望を聞きその後につなげている。	居室での面会はまだ控えてもらい玄関での面会としているが電話も活用して家族の意見を漏れなく把握できるよう対応している。また、毎月家族に送付しているお便りの写真はとてもきれいで活動への参加や普段の生活の様子がよくわかるため、家族もお便りを見た感想を職員によく伝えており、出された意見や感想を職員間で共有しながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ自身の自己評価や個別の面談を行い一人ひとりの意見や要望等を聞き、アドバイスや助言を行い反映させている。毎日のミーティングやその都度、何か気付いたら声をかけるように心がけている。	毎日の申し送り時や職員会議のほか、日常的に職員は管理者に意見を伝えており、職員会議では職員全員が意見を言えるよう管理者が問いかけている。また、資格取得の際は金銭面の補助があるほか、勤務シフト作成時は休みの希望が叶えられるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件、給与水準に関しては、自社努力で上げていくことは厳しい現状である。介護職員処遇改善交付金を活用させてもらっている。少しでもスタッフの収入増になればと思う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会や行政主催の研修に積極的に参加している。スタッフ一人ひとりが専門職として自信とやりがいを持てるように支援している。ケアマネの資格取得も進めるが拒否されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会等の研修に参加、他施設のスタッフと意見、情報交換する場になっている。また病院のソーシャルワーカーや他の施設の管理者や経営者とのつながりも大切にしている。ホームの空き情報や介護保険改正時には情報・意見交換行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での生活による精神的な不安や戸惑いを理解し、入居前の面接を時間を書け行っている。その上でホーム見学に来てもらい、その状況を見ながら、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談より、家族がどのような想いでいるのか不安や戸惑い等理解するためにも十分な時間をかけ話を伺っている。精神的な不安を軽減し今後の関係につながるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や見学時から、本人に何が必要か、家族が何を望んでいるかを引き出し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者ではなく、一つの家族として接することが理想であり、実現できるよう努力している。利用者から遠慮なく、何でも言ってもらえるような関係を形成できればと思う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への入居前の面談にて、家族の支え、協力等必要性を話している。面会時には、生活状況を報告し、たりない部分へのアドバイスやサポートを頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ流行前は、家族との外出や外泊、家族や本人の要望により墓参りや自宅帰省の支援を行っていたが、コロナ流行の際は面会制限もあり厳しい状況である。	これまでの生活の様子や馴染みの関係を本人や家族のほか、ケアマネージャーなど関係者からも聞き取り把握している。家に帰りたいや家族に会いたい等の希望はコロナ禍以降自由に支援できないが、受診の際に近くを通るなど、できる範囲で支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや活動を通じ全員が関わりを持てるように努めているが、やはり気が合う人合わない人があったり人との関わりが苦手な方がおられたり難しい場面も多い。個別に接する時間を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームとしてできる事、協力できることは率先している。入院等にて契約終了しても、退院後 老健等の施設を経て再入居されることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務の中で、何を望んでいるか？何を思っているか？考え接している。利用者とのふれあいを大切にしている。又、家族への聞き取り等面会時に話をしその情報スタッフ間にて共有している。	本人の意向や望む暮らしを入居前の関係者から詳しく聞き取り把握するほか、うまく伝えられない場合は家族の意見や普段の様子、声をかけた時の表情などから汲み取るようにしている。また、気付いたことは申し送りノートに記載し、申し送り時等に情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴、性格、趣味嗜好等家族からの情報と、日々接する中で一人ひとりを把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ができる事、出来ないこと、必要としていることを把握・見極め、可能性を考え、その人らしく過ごせるように模索している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望、家族へ生活状況説明、要望を伺っている。職員会にてその人に何が必要か？スタッフと検討し計画を作成している。しかし入居期間が長くなり安定していると、ケアプランも変化がなく、もっと本人を掘り下げて考えていかないとと思うことがある。	本人の意向を日常会話や様子などから汲み取ると共に、家族からは面会時や電話で要望を確認している。また主治医にも照会文書を依頼し、意見や助言をもらいケアプランに反映させている。作成したプランはカンファレンスやモニタリング評価を行う中で利用者の状況がプランに即していないと判断された際はプランを見直し、現状に即したプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートにて情報の共有に努めている。ミーティング、職員会にて話し合い介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や行政関係の申請・手続き、日用品の買い物、自宅帰省の送迎等 家族の状況に配慮し支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校との交流会を毎年行っている。またボランティア等慰問や中学校の職場体験も受け入れている。コロナ過になり状況により実施・受け入れ対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への定期的な受診を行っている。歯科については訪問歯科協会の協力もあり年一にて歯科検診を実施、義歯の緩み調整、痛み等については随時対応していただいている。	入居前のかかりつけ医や受診の経過を把握すると共に、入居後も本人や家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。訪問看護による健康管理を受けていることもあり、かかりつけ医を訪問看護の医療機関に変更される利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約、週1訪看来所の体制である。気になることはその都度報告しており訪看から指示や、訪看よりDrへ報告。Drの指示にて受診等対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療相談員や病院関係者と連携を図り、本人・家族をサポート。入院中も面会を重ね入院生活におけるダメージの軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、ホームでどこまで出来るかをスタッフと検討、医療関係を含め今後の対応方針を決めている。利用者・家族の意向に添えないことも多い。	「重度化における対応（看取り）指針の説明及び内容」を整備し、入居時に説明と同意を交わすほか、重度化や看取りの段階では「看取り介護に関する同意書」により再度確認することで、利用者や家族の思いの変化を汲み取れるようにしている。これまでに看取りを行った事例はあるが多くが老衰による看取りであり、医療行為を必要とする場合は入院になることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはマニュアル、内部研修等にて繰り返し行っている。スタッフの入れ替わりもあり消防署主催の救命士の講習を受講させていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回実施。地震や台風についてもその都度話し合っている。ホームにおけるBCP非常災害対策計画を作成、職員会にて中身を共有している。	年2回夜間想定を含む災害訓練を実施している。コロナ禍以降消防署の立ち合いはないが来年度以降は消防団に参加してもらう予定としている。備蓄は約3日分程度の食料と飲料水を準備しており、備品については、カセットコンロや懐中電灯のほか、停電してもしばらくは太陽光で発電が可能な設備を備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず言葉使い。仕事に慣れてきたり、信頼関係が成り立ってくると言葉使いが乱れがちである。利用者と介護職としての関係を忘れないよう職員会や朝礼にて繰り返し話をしている。	法令順守や認知症についての研修を実施し、トイレ誘導の際の職員の声の大きい場合等には管理者が注意喚起を図っている。また、お便りの写真掲載等についても個人情報の取り扱いとして同意署名をもらうほか、個人カルテの保管についても人目につかないよう事務所管理としている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	具体的に例をあげ、思いを自己決定できるように支援している。利用者から何でも言ってもらえる信頼関係を築くことが出来るよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせ支援したいが、スタッフの都合にて希望に添えないことも多い。一人ひとりの生活リズム、ペースを大切にし、希望に添えるように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は、定期的にスタッフが本人の好みに合わせカット行い、要望がある方は毛染めも行っている。家族に衣替えをお願いし季節にあった自分の身だしなみをさせていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週ではないが、お菓子やお好み焼き作りを楽しんでいる。普段はモヤシの根切りや野菜の下ごしらえ。季節により竹の子やソワの皮むき、切り干し大根作り。	毎日の食事は当日冷蔵庫内にあるものを基本に利用者に食べたいものを尋ねるなどしてメニューを決めている。調理する際は利用者もピーラーを使って野菜の皮をむいたり、台拭きや食器洗いに参加する方もいる。また食事は職員も同じメニューを会話を楽しみながら食べている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立、一人ひとりの状態にあった量・好き嫌い・食事形態等考慮している。特に水分摂取量は注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに関しては、係りを決め実施し、チェック表にて忘れの無いようにしている。又、年1回訪問歯科診療の検診。必要な方は訪問歯科利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン・排泄量等 把握に努め支援している。トイレ誘導・介助、オムツの種類、Pトイレの活用等 検討し安易なオムツ使用を行っていない。	半数の居室にトイレを備えているため、利用者は終日自由にトイレに行くことができるほか、夜間ポータブルトイレを使用する方も日中はトイレでの排泄を基本とすることで排泄補助用具の使用削減につなげている。また排泄時の支援方法についてはケアプランに組み込むことでケアの統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関し、運動や水分 食材の工夫行っている。しかし改善できない方は、主治医に相談し内服にて管理する方もおられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	正月元旦以外は毎日が入浴日である。利用者は大概一日おきが基本であるが、希望にて続けて入浴や足浴される方もおられる。入浴時間が15時からとなっており希望に添えているかは？	普通は夜に入浴することが多いため、なるべくそのような状況に近づけられるよう午後3時以降の隔日入浴を設定しており、希望があれば連日の入浴にも対応している。冬至にはゆず湯を提供したり、入浴後の保湿クリームの塗布やスポーツ飲料による補水にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けておらず、本人のペースにて就眠されている。22時過ぎてもテレビを見ている方も。安眠に関しては日中から生活リズムを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしており、内服変更の際はその都度口頭や申し送りノート・日誌にて情報を共有している。誤薬や薬の弊害 副作用等注意している。痛み止めや下剤等 定期薬以外の使用の際は必ず管理者に報告してから使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・干し等できることは、自分の役割と覚えてもらえるよう支援している。余暇は皆での体操やゲーム、個別に計算問題や書き取りやYouTubeを見たりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過になり、家族との外出の機会が出来なくなっている。ホーム周りの散歩やドライブのみになっている。	コロナ禍以降、外出の頻度は少なくなったが、月1回の受診後にドライブがてら周辺を見て回ったり、桜見物や霧島が丘公園、初詣などに出かけ記念写真を撮るほか、日常的に散歩に出かけ、畑に植えられたコスモスやひまわり、そばの花を見る等して気分転換を図っている。家族との外出については状況に応じて対応するようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は、小遣い程度持ってた方が数名おられたが、現在は現金所持している人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へ電話の希望があればその都度連絡を取っている。長く面会のないときや家族と話をされたい様子見られたら、こちらから電話を促している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンになっており、調理をする音や匂い、玄関やホールには季節ごとに飾りを替えて季節感を取り入れている。トイレは尿臭がしないよう努めている。	天井が高く明るいフロアには畳スペースが設けてあり、季節毎の作品が掲示され、窓から見える畑やコスモスなど季節ごとに植えられた花、遠くに山が見える気持ちの良い共用スペースとなっている。玄関は3枚引き戸のため開口部が広く車椅子の方も出入りしやすい環境に配慮されている。浴室は個浴であるが広く、シャワーチェアも備えるなど動作への配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファを数ヵ所設置している。気の合う方同士で過ごされたり、一人で座られていたりされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に、使い慣れた物品について説明している。数人だが家族の写真を持ってきて飾ったり最近ではテレビを持って来られる方が増えている。	エアコンに洗面台、タンスや電動ベッドが備え付けられるほか、約半数の部屋にはトイレも完備しているため大変過ごしやすい環境になっている。また、自宅から持ち込まれた写真やテレビを自由に配置することで居心地に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカやトイレ、居室入り口等手すりを設置し 自立支援・危険防止の設計はしてあるが一人ひとりに合わせたものではない。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない